

仕事が順調な時ほど思い出して！

松下幸之助が伝えた「たった4文字」の言葉とは？

■リーダーが忘れてはいけない「初心」は意外と簡単に取り戻せる。

社長は偉いから社長なのではなく、社内で社長と言う役割を果たしているに過ぎません。これは社長に限らず、すべてのリーダーでも同じです。時には失敗したり、油断したり、慢心したりすることもあるはずですが。

しかし、部下たちがそれを指摘することはなかなかできません。そのためリーダーは、自ら初心に立ち返って自分を見直す努力をしなければなりません。

リーダーの中でも、特に順調に会社を伸ばしてきた創業社長は、取引先や地域の人たちからちやほやされる機会も多くなり、慢心して駄目になる社長は少なくありません。

どんなに優秀な人でも慢心していれば、たちまち足元をすくわれる。そうならないために昔からあるのが、「初心忘るべからず」という言葉です。

「初心を忘れずに自分を律することができるかどうか」も、優秀さを測る一指標になるのです。

実は、「ある方法」を試すだけで、意外と簡単に初心を取り戻せます。創業社長はもちろん全てのリーダーに有効な方法です。

一番有効なのは「苦勞」を思い出すこと

それは、苦勞を思い出す「思い出の品」を眺めることです。

例えば創業社長の場合、創業当時の財務諸表を見たり、創業時に書いた方針書を見たりすることで初心を思い出すことができます。

私の場合は創業時代に名刺交換した方々の名刺ファイルを持っていて、時々見返して、お世話になった方々に感謝しています。これも初心を忘れないための一つの方法です。また、30年ほどつけている3年連用日記を読み返すこともあります。そうすると会社の規模が小さく、お客さまが少なく、経営が大変だった時期を思い出すことができます。

さらにもう一つ、私には初心に戻る方法があります。創業してすぐの時期、金融公庫から資金を借りて返済計画表に沿って返済していたのですが、返済を終えてからも返済計画表を書斎の机に置いて、いつでも見られるようにしています。

今となっては大金と言うほどの金額ではないのですが、返済計画表を見ると「あの頃の苦勞」を思い出すことができます。そういうふうに過去を思い出すことも、「初心忘るべからず」につながるはずですが、創業社長の場合は、創業当初と現在とでは会社規模の差が大きく、たくさんの苦勞を経験してきたはずなので、初心を思い出しやすいと思いますが、2代目、3代目社長の場合は、「創業当時の苦勞」がなく、就任当時と現在の会社規模にもあまり差がない場合もあるかもしれません。

そういう人は、創業者の話が聞ければ聞いてみるといい。それができなくても、例えば自身が社長就任時に社員にそっぽを向かれたというような、苦勞した時のことを思い出すことはできるはずですが、そうやって苦勞を思い出すことが、初心に戻るための大きなポイントです。

ここまで経営者を例にしましたが、誰にでも「苦勞を思い出す品」はあるはずですが、名刺、企画書、見積書、製品そのもの…それらを眺めることは、職種や業界を超えて有効な方法でしょう。

■「素直で謙虚な心」「反省」も欠かせない

日々の経営に没頭していると、初心や経営の原理原則を忘れがちになりますが、松下幸之助さんがおっしゃっている通り、素直で謙虚な心があれば忘れていても思い出すことができると思います。

また、「素直で謙虚な心」とは縁遠い社長やリーダーの場合も、努力によって身につけることができます。まず、反省する習慣を身につけることです。大きな失敗を犯した時はどんな人でも反省しますが、順調な時にも反省して直すべきところを見つけることが大切なのです。

反省とも関係することですが、自分を客観的に見る習慣を持つことも大切です。松下幸之助さんはそれを「自己観照」

—自分の心を自分の体から取り出して、冷静に自分を見つめてみるという表現をされていますが、初心に戻るだけでなく、自分を客観的に見る。それにより反省し、改善すべき点を改善するのです。

順調な時は自分がやっていることは正しいと思い込みがちですが、あえて「自己観照」してみると、自分の行動のおかしな部分が発見できると思います。

経営の原理原則を思い出すための簡単な方法は、読書です。松下幸之助さんや稲盛和夫さんのような成功された経営者やピーター・ドラッカーのように経営の神髄を見極めた人たちが書いた本を繰り返し読む、それも素直に読むことです。自分の都合のいいように解釈してはいけません。

私は寝る前には必ず松下幸之助さんの『道をひらく』を少しずつ読んでいます。初心を忘れないことも、素直で謙虚な心を持つことも、経営の原理原則を身につけることも、このような小さな習慣の積み重ねが必要なのです。

Diamond Online 小宮一慶の週末経営塾より

3月の行事 春彼岸

今年の春の彼岸入りは3月17日(日)、彼岸の中日は3月20日(水・祝)です。仏教では「極楽浄土に想いを寄せ、善行を積むべき大切な時期」だとされています。お彼岸のときは、お寺の法要に参加したりお墓参りに行ったりして、先祖や故人を偲び供養するのが一般的です。彼岸の入りには、ご先祖様へ感謝の気持ちを伝えるために、仏壇や墓石をきれいに掃除します。いつもより時間をかけて、仏壇や仏具の手入れや墓石の掃除を行いましょう。

仏具は、埃を払った後に柔らかい布で傷を付けないように優しく拭き、元の位置に戻します。仏壇には、新しい花やぼた餅、お彼岸団子などをお供えしてください。

お墓の掃除は、墓石の掃除だけでなく、お墓の周りの草むしりや植木の剪定なども行うと、お盆のお墓参りが楽になるかもしれません。お墓の掃除をしたあとは花や線香をたむけ、お菓子をお供えします。そして合掌礼拝の前に水桶からたっぷりと水をすくい、墓石の上からかけます。水をかけるのもお布施の一つです。

仏壇やお墓の手入れを丁寧に行うことで、**故人やご先祖様を改めて感じる大切な時間になる**でしょう。



歓送迎会のマナー

新型コロナの5類移行で今年は歓送迎会やお花見を開催する企業が増えることが予想されています。開催される企業の多くは「従業員の親睦を図るため」「従業員の士気向上のため」と言ったことが目的。これまでコロナ禍で会食する機会が少なかったため、改めて会食マナーについての基本的なマナーを紹介します。

- ・**開始時間には遅刻しないこと**…お店で待ち合わせしている場合、上司や先輩がまだ到着していなければ、お店の前で待っているのがベストです。
- ・**新人は「下座」に座りましょう**…基本的に入り口から一番近い席が下座です。反対に入り口から一番遠い席が「上座」。上座には一番年長者の方や役職者の方が座る席とされています。
- ・**ついでにグラスは両手で持ちましょう**…グラスを片手で持つと、相手に対して偉そうな態度を取っている印象を与えてしまいます。
- ・**乾杯の時は、グラスの一を低く**…一般的にグラスを掲げた時、その位置は目上の人よりも低くしましょう。
- ・**目上の方が食べ始めてから食事に手を伸ばしましょう**
- ・**食事の最中に上司や先輩に話しかけられたら、一旦箸を置いて話を聞くことに専念しましょう。**
- ・**上司や先輩のグラスが空になったらお酌をしましょう**…相手の近くにあるお酒を手にとって両手で丁寧に注ぎましょう
お酒は瓶のラベルは上に向け、瓶の口をグラスにつけないように！